

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	(株)桜梅桃李		
事業所名	グループホーム パラソル 倉敷中庄		
所在地	倉敷市中庄2371-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居前の生活とのつながりが途切れないよう、自宅や馴染みの場所へ外出支援をし、家族や馴染みの人との関わりをもてるように努めています。敷地内に畑があり、四季折々の野菜を育てています。昔の経験を活かし生き生きと畑作業をされ、職員も色々勉強させていただいております。それぞれのできることを活かし役割をもっていただいたり、生活にとって必要な動作について、できることはご自身で行っていただけるような支援を心がけております。又、表情豊かに暮らしていただけるよう、お一人おひとりに合わせた作業・運動・野外活動や、ボランティアの方によるハンドケア・フットケア、音楽体操・運動会等、地域の皆様との交流にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、入居者が住み慣れた地域で暮らし続けられるための環境づくりに努め支援しています。職員は、日常生活の中で入居者の趣味嗜好を把握し、一人ひとりの力を発揮出来る様取り組んでいます。又、ボランティアやレクリエーションを多く取り入れ入居者の普段とは違う表情を引き出し、笑いのある日常が送れる様支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの人生を過ごされた方々の経緯を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を図りながら、個々のニーズに沿った支援を行う事により、日々充実した生活の提供と理念の周知を実施。	事業所独自の理念を掲げています。趣味や好きな事を把握して個々の力を引き出し、住み慣れた地域で暮らし続けられる様支援に努め、職員同士共有しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、散歩やドライブ時には地域の方への声掛けを行って交流に努めている。	運営推進会議や地元出身の職員から情報を貰い、地域の行事に参加しています。又、散歩時、地域の人と挨拶を交わし地域の一員として日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた地域の方や家族の方の思いを聞かせて頂き、思いに寄り添えるような助言を出来る限りさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、会議で出たアドバイスや意見をスタッフ間で共有しサービス向上に活かしている。	事業所の現状報告だけでなく、地域支援センターや家族から情報を貰ったり、意見交換を行いサービス向上に活かしています(例:家族意見の中から朝食にパン食を取り入れたなど)。	運営推進会議は事業所の取り組みや改善課題を話し合う良い機会です。地域との共通課題として災害対策等話し合い、協力関係の構築に取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方へ不明な点、判断できない事は相談させて頂き、必要であれば訪問、又は来訪して頂いて問題解決に努めている。	運営推進会議の参加を呼びかけ、情報の共有に努めています。又、困ったことがあればその都度相談し解決できる様努め、協力関係を築きながら取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議・カンファレンス時には何が拘束なのかスタッフ間で共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、夜間のみとさせて頂き、離設に繋がらないように散歩やドライブで気分転換を図っている。	看護師を中心に内部で勉強会を開催し、事例検討を行いながら、その都度職員同士共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、日常の声掛けやケアにおいてスタッフ間で注意を払っている。異常が発見された場合は、原因を究明し職員全体に報告し、指導を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいる為、実際に入居者の方との関わりを持ちながら制度を学んでいる。又、会議・カンファレンス時にスタッフ間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には必ずわかり易い言葉で十分な説明を納得いただけるまで行い、不安や疑問点を無くすように努めている。わからない事等あれば随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族等の意見・要望について申し送りノートに記載し、スタッフ間で共通理解を図り運営に反映している。運営推進会では家族の方に自由に意見を述べて頂いており、又、玄関にご意見箱を設置している。	面会時は、管理者が中心となり入居者の近況報告をしています。家族が話し易い雰囲気作りに努め、運営に反映させる様取り組んでいます。又、月に1回パラソル通信と担当職員からの手紙を添えて配布しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時等にスタッフの現状改善意見を出し合い、問題解決改善を行い反映させている。会議に参加できない時は各自のレターボックスを活用し徹底するようにしている。	会議時に職員から意見・提案を聞く様になっています。又、日常業務の中でも相談があれば、管理者は、職員の意見を尊重し話を聞く様に心掛け運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年2回実施し、契約更新時に話し合える場を設けている。役割担当表等責任感を持たせる事により、意識向上、やりがいを持たせるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人ひとりに必要と思われる研修に参加してもらっている。さまざまな研修の案内を事務所に掲示し参加を促している。スキルに合った指導の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者と情報交換を行っており、サービスの質の向上に反映されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に事前見学していただいたり、本人に直接会う機会を作り、心身の状態や思いを聞き状態把握に努めるとともに、不安要素を取り除くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が相談しやすい雰囲気作りを心掛け、何でも相談していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には聞き取りを行い、状況把握に努め、必要と思われる環境を整える工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという考えを持ち、本人の得意なこと・趣味等を行っていたり、入居者様から色々なことを教えてもらえる様な場面を設定している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には必ず本人の様子を報告し、行事等を伝え、共に参加してもらいご家族との時間を大切に継続して頂けるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人等の来所時にはソファや自室にてゆっくり過ごして頂けるよう努めている。可能な方はご家族と外出されることもあります。入居に際しては、出来るだけご本人様が今まで使用されていてものを持参してもらうようにしている。	日常生活の中で、昔話から今までの馴染みの人や場の把握に心掛け、職員同士情報を共有して関係が途切れない様、支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席や会話の話題にも気を配り、入居者様同士のトラブルを未然に防ぐよう努めている。スタッフが間に入り気分転換を図るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様をお目に掛けたい時は、必要に応じてその後の経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お1人ひとりとゆっくり会話できる時間を増やせるよう工夫しており、日々の会話より希望や意向を把握するよう努めている。	日常生活の関わりの中で、傍に寄り添い意思疎通を図りながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にお聞きする等して生活歴の把握に努め、情報をスタッフ間で共有し、出来る限り今までの暮らし方を変えないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの観察力を高め、入居者様お1人おひとりの残存能力を見極め、ご本人様にできることはしていただき、現状維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を正確に把握し、カンファレンスやモニタリングで情報収集すると共に、ご家族様やご本人様の思いをお聴きし介護計画へ反映させるように取り組んでいます。	計画作成担当者を中心にカンファレンスで話し合い、職員同士共有しながら介護計画の作成に取り組んでいます。変化があればその都度必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察力の向上と、簡潔にわかりやすく文章にする能力を養う必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の状況に応じ、スタッフ・医師・看護師との連携を図り、柔軟な対応ができるよう努めている。病院受診・買い物支援等も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で得た情報等により、地域行事に参加している。又、地域のボランティアの活用により、リフレッシュしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やその他の専門医との連携を図り、個々にあった適切な医療を受けられるよう支援し、急な受診があった場合はスタッフが受診に付き添っている。定期的な往診でお1人おひとりの健康管理と医療支援を行っています。	日々の受診は往診を利用しています。他科受診の際は、情報共有シートを利用し適切な医療を受けられる様支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの看護師に緊急時24時間連絡できる体制を整えている。介護職は日々のケアを通じ状態の変化、異常を発見できる力を養い、看護師から適切なアドバイスをもらうよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行くことにより、入院先の医師や看護師から状態を把握している。頂いた情報はスタッフ間で共有し、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りについてご家族に説明し、最期まで住み慣れた環境で生活していただけるよう、状態の変化に応じて都度話し合いができるよう努め、スタッフ間で方針の共有と支援について理解を深めていくよう取り組んでいる。	看取りの際は、看護師を中心に勉強会を開催し、本人・家族にとって一番良い形で支援できる様関係者で話し合いながら、方針の統一・共有に努め取り組んでいます。緊急時は看護師と24時間連絡が取れ、職員の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護経験の長いスタッフが多く、又、看護師がいる為勉強会時・実践に役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し年2回避難訓練を実施している。又、運営推進会議において地域の方への協力要請を行っている。	火災を中心に年2回、利用者と一緒に避難訓練を行っています。備蓄についても準備出来る様、本部と話し合っています。	いつどんな災害が起こるか分かりません。職員も被災することも含め、今後も地域・消防署などと協力しながら取り組まれることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人おひとりに合った言葉掛けを見つけ、ご本人様の気持ちを大切にし、その場に合わせたさりげない声掛けを工夫するように努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、信頼関係の中で個々に合った接遇に努めています。不適切な対応に気付いた時は、職員間で注意しながら本人本位に検討し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の意見や意志を出しやすい環境や関係作りに努めている。意思表示できない方は本人の表情を観察しながら、ご本人の希望を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、心理の変化に目を配り、柔軟な体制で支援している。コミュニケーションを日頃より密にとり、ご本人様が希望を伝えやすいような関係作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご本人様に服を選んでいただいている。定期的な訪問理容を取り入れて、毛染め・パーマ等ご本人様の意思を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けし、出来る方には下ごしらえ等準備を手伝って頂いたり、希望されれば片付けも手伝って頂いている。施設の畑で収穫できた野菜で、献立を一緒に考えたりしている。	入居者に献立を伝え、食に対する興味を引き出し、無理のない範囲で準備・片付けを一緒にしています。又、畑で収穫した野菜で献立を考え、食事が楽しめる工夫に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・水分量を記入し、不足時にその都度状況に合わせて必要量摂取できるよう、スタッフ間で共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表に記入し、実施し忘れの無いようにしている。毎食後義歯洗浄・うがいの声掛け・介助を行っている。毎日就寝前にポリドントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、タイミングをみて排泄支援を行い、失禁の減少を図り、トイレでの排泄を促している。	モニタリングを行いながら、入居者一人ひとりの自立を見て、個々に合った排泄方法を会議で話し合って支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳摂取・バランスのよい食事を提供すると共に、日々の運動・体操・散歩等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけお1人おひとりのニーズに沿う計画を立てている。時間帯についても意見の尊重に努めている。	これまでの生活習慣や希望を尊重して、出来る限り入居者の思いに沿える様取り組んでいます。入浴拒否には、声掛けや対応を工夫し、職員同士協力しながら取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、個々の意見を尊重している。夜間帯や不眠時は温かい飲み物を提供したり、職員と過ごしたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人おひとりの薬情報をファイルし、すぐ確認できるようにし、理解を深めるよう努めている。薬が変更になった場合は状態を記録し、医師へ状態報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から、その方の趣味や得意なこと等の把握に努め、個々の力を発揮できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等により気分転換を図っている。四季にあった外出計画を立てて実施している。ご家族様来所時に一緒に外出される方もいる。	庭で草取りをしたり、近所を散歩し気分転換出来る様努めています。又、窓やカーテンを開け五感刺激に努め、閉塞感を感じない様支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる入居者様は、ご家族様の協力も含め所持している。外出時等買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるようにしている。希望により携帯電話を居室に持たせている方もいる。ご家族様からの手紙の受け渡しも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りや置物等工夫している。照明は時々に応じた明るさ、自然光を取り入れる等工夫している。ホールから見える所に季節の花や野菜を植えて、季節感を味わって頂いている。	廊下を歩き体力づくりをされている方、マッサージチェアを使用されている方など、一人ひとりが自分のペースで居心地よく過ごせる様、見守りながら支援されている様子が窺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士のよい関係が保てるような席次等の工夫、配慮に努めている。横になって過ごせる畳コーナーや、お1人でゆったり過ごせるソファも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具・写真・本等を持参して頂き、ご本人様の馴染みのあるものを配置することにより、居心地のよい環境作りに努めている。	特に制限はなく、馴染みのものや仏壇を持ち込まれ、入居者・家族の思いに沿った部屋作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示を行い、状態に合わせて声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。居室に目印となるものを付けている方もいる。		